

サービス業

業況、売上、採算

今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲30.5で、前年同期(2020.7～9)と比べ16.1ポイント上昇しました。

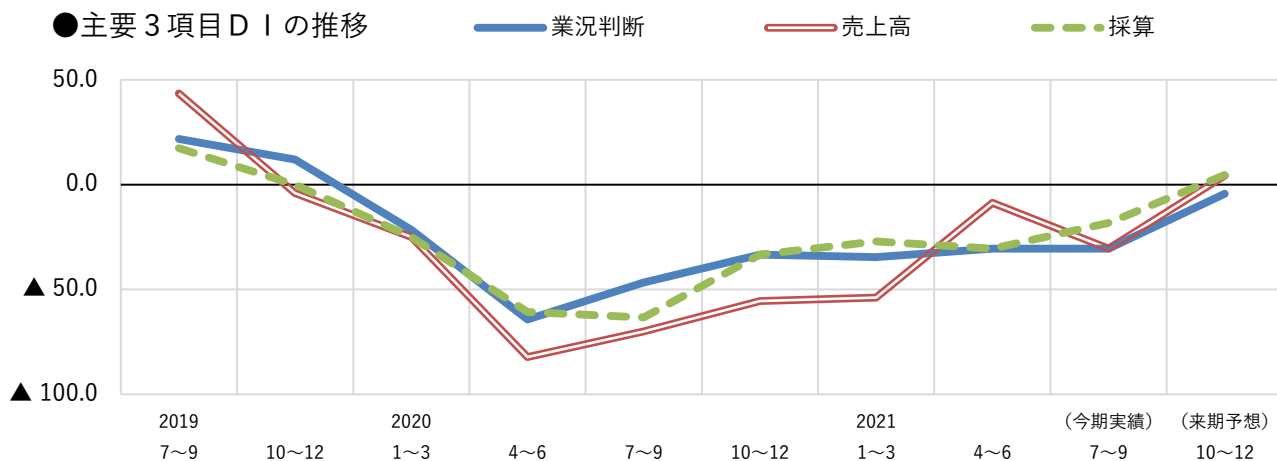
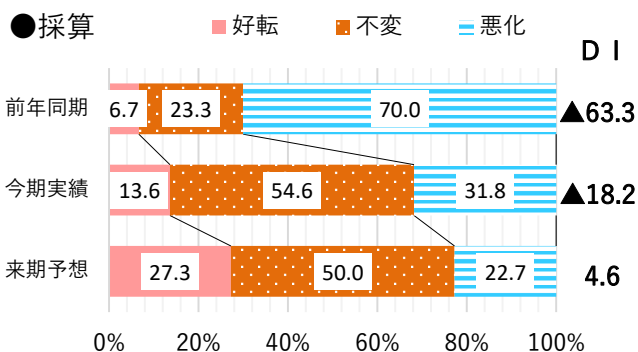
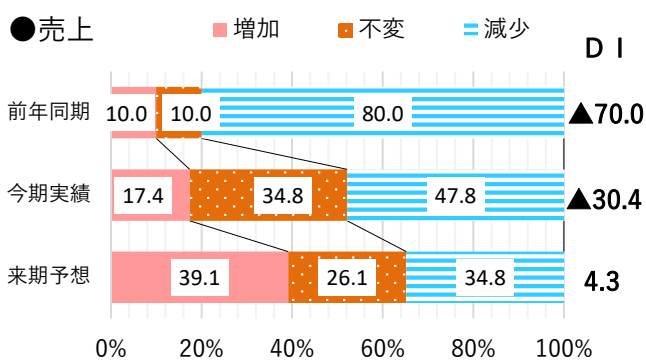
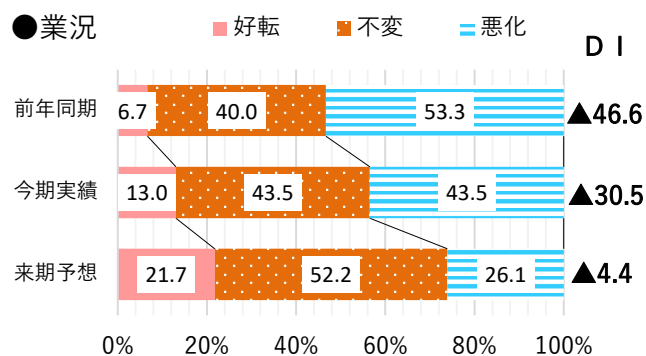
来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲30.4で、前年同期と比べ39.6ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と比べ45.1ポイント上昇し、大幅に好転しました。

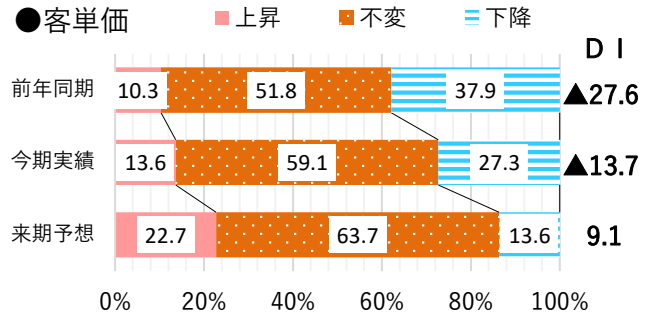
来期は、採算がプラスに転じると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

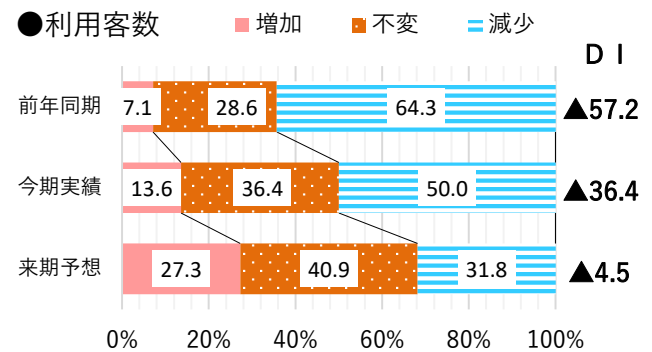
今期の客単価DIは▲13.7で、前年同期と比べ13.9ポイント上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



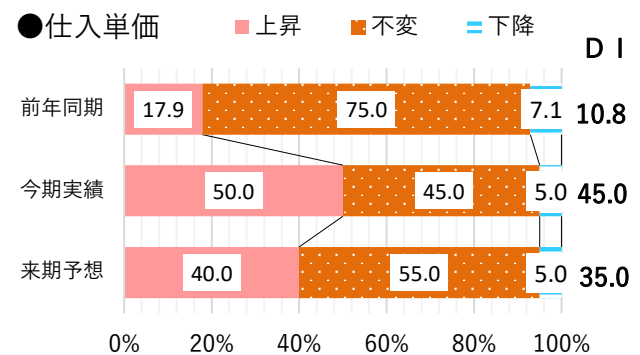
今期の利用客数DIは▲36.4で、前年同期と比べ20.8ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは45.0で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇しました。

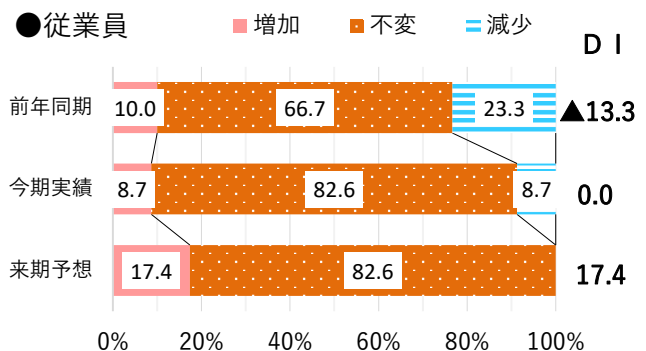
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



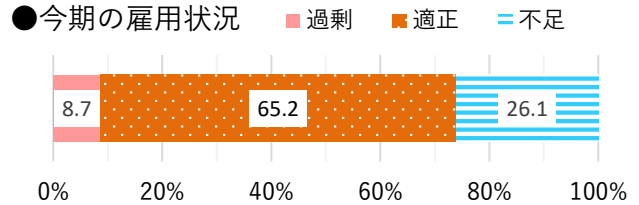
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ13.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.7%、適正であると回答した企業の割合は65.2%、不足していると回答した企業の割合は26.1%でした。



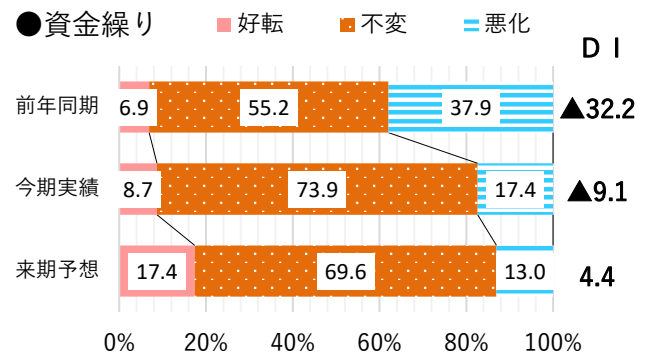
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の52.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

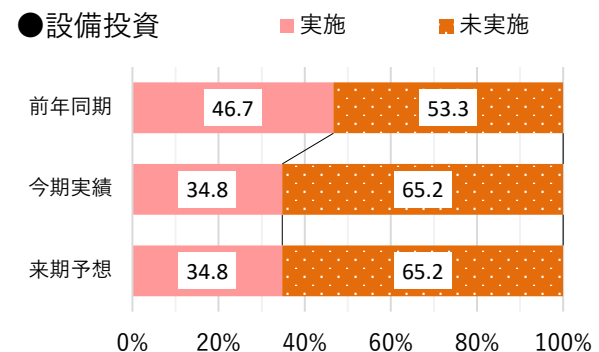
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲9.1で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの好転を予想しています。

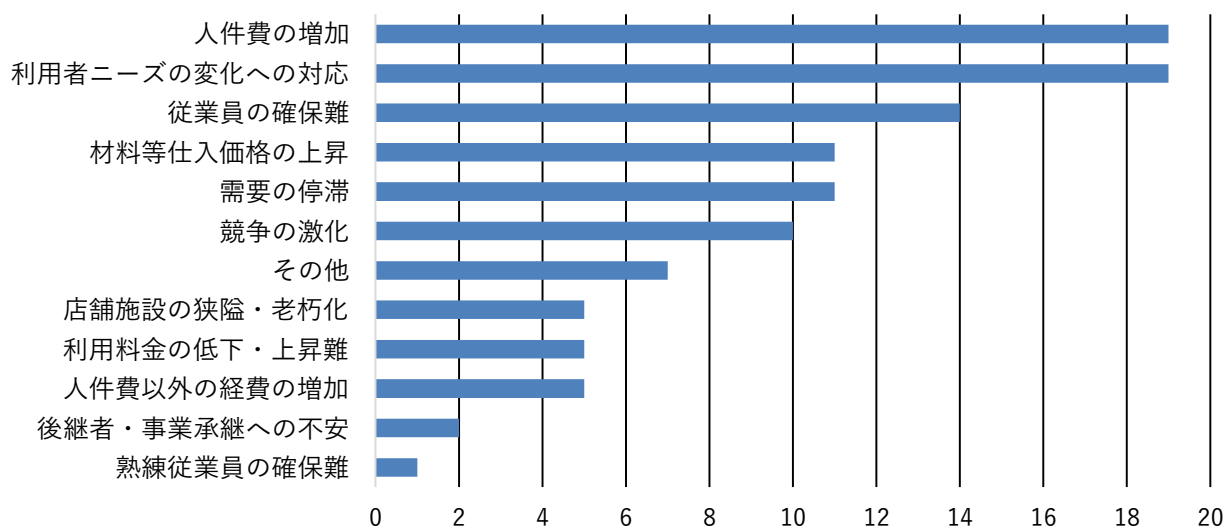
設備投資を実施した企業の割合は34.8%で、前年同期と比べ11.9%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」（同位）の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は34.8%で、横ばいを予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、「利用者ニーズの変化への対応」（同位）、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料等仕入価格の上昇」、「需要の停滞」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの第4波以降は、客足が戻り安心した。第5波の緊急事態宣言で休業を余儀なくされたが、給付金、雇用調整助成金でしのぐことができた。（飲食店）
- まん延防止等重点措置、休業要請によって売上が減少した。（飲食店）
- コロナ禍による広告数の減少に伴い、売上も減少した。（出版業）
- プレー代金の値下げをせずに、客数を維持できた。顧客のプレー単価は上昇した。（スポーツ施設）
- 集客は回復したが、成約につながらなかった。（不動産代理・仲介業）
- 業況が特に悪化した昨年と比べると好転したが、楽観視はしていない。本来あるべき売上がコロナ禍によって大幅に減少したが、官公庁からの委託事業により何とか埋め合わせできている。（旅行代理店）
- 昨年同期の業況が悪かったため、相対的に業況が好転した。コロナ禍が続いているが、客数への影響は小さくなり、利用客数は増加した。仕入価格は上昇した。従業員数、賃金は変わっていない。（美容業）
- 緊急事態宣言により、数か月前から受けていた仕事の依頼が全てキャンセルとなった。（写真業）
- コロナ禍ではあるが、前年と比べ、顧客の積極的な姿勢を感じる。仕事の効率が上がったため、雇用がやや過剰な状況にある。（広告代理業）
- ネット販売と店頭販売を併用しているが、店頭販売の売上はほぼなく、業況は悪化している。（保険業）

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルス再拡大の懸念はあるが、9月下旬のシルバーウィーク以降は人流が増加し、売上が増加するのではないかと期待している。更なるワクチン接種、ブースター接種によって、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めをかけてもらいたい。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息が見込めず、不安定な状況が続くと思われる。夏の猛暑の影響で、秋に獲れる魚介類の価格が高値で推移している為、仕入単価の上昇は確実だと思われる。（飲食店）
- 最低賃金の引き上げによって経費が増加するが、受注金額に反映できない。（ビルメンテナンス）
- 新規顧客の開拓と、コロナ禍で取引が滞っていた顧客の利用回復に努める。（出版業）
- 今期と変わらない状況が続くと思われる。（スポーツ施設）
- 売上の増加を見込む。（不動産代理・仲介業）

- 緊急事態宣言により、修学旅行が来期にずれ込んだため、売上の増加を見込む。（旅行代理店）
- 新メニューの提供開始や、秋冬に向けた対応を計画している。仕入価格は下がらないと思われる。スタッフの賃金を引き上げる。（美容業）
- 緊急事態宣言が解除され、積極的な投資が進むことで、売上が増加すると思われる。（広告代理業）
- 営業社員を増やして増収を図りたいが、増員は難しいため、現在の人員で努力する。（保険業）